

平和の日メッセージ

昭和19年(1944年)11月24日、武蔵野が初めて空襲を受けてから、74年が経ちました。

当時この地には、ゼロ戦などの戦闘機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所という軍需工場がありました。この工場は東洋一と言われるほど大規模で、米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに空襲は9回を数え、工場関係者200名以上が犠牲となり、周辺地域でも多くの住民が巻き添えとなりました。

武蔵野市では、この空襲で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代につないでいくために、初空襲のあった11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定しました。

今年は、都立武蔵野中央公園の拡張に伴い開園された公園内に、武蔵野の空襲や中島飛行機武蔵製作所について記録した説明板が、5枚設置されました。また、戦争遺跡を訪ね、市の歴史を知り、平和について改めて考えていただくため、新たに延命寺にも平和案内説明板を設置しました。

戦争を体験された方から直接体験談を聞く機会も大変貴重になっています。戦後70年余を経た今、私たちには、この「体験の記憶」を語り継いでいく使命があります。貴重な記憶を風化させず、未来へつないでいくため、今後も若い世代に武蔵野の空襲の歴史や戦争体験の記憶を継承しながら、平和の尊さ、戦争の悲惨さを後世へ伝えていく活動を市民の皆様とともに取り組んでまいります。

そして、原爆投下による広島、長崎の悲劇が二度と世界で起こることのないよう、武蔵野市は、国内外の自治体と連携しながら、戦争も核もない世界の実現に向けて、お互いが尊重し合う平和な社会を育む取り組みを推進してまいります。

2018年11月24日

武蔵野市長 松下 玲子